

第81回東海三県高校将棋大会（2019年7月15日（月）東海高校） 結果

年2回開催の東海三県大会も、今大会で盤の枱目と同じ81回目を数えることとなった。今回から、個人戦に代わって「交流団体戦」が新設された。愛知・岐阜・三重の41校からリーグ団体戦に41チーム（最多タイ記録）、交流団体戦に34チームが参加した。

【リーグ団体戦】

従来の団体戦を、交流団体戦と区別してリーグ団体戦と呼称する。3人制で、各級原則6校による総当たりリーグ戦を行い、入替戦の結果で昇級・降級がある。持時間は30分切負。

A級では6連覇中の名電を含めて若返りを図ったチームが多く、6チーム18人のなかに3年生が一人もいないのは珍しい。それでも名電が4回戦まで勝ち続け、最終戦の名電対鶯谷の勝者が優勝することになった。大将戦は名電が、副将戦と三将戦は鶯谷が取って、勝ち点・勝数で並んだものの、直接対決の結果によって鶯谷が悲願の初優勝を果たした。また、目立たないが、近年の旭丘の入替戦での強さは特筆に値するもので、今回もB級2位校に勝って残留を果たしている（表を参照）。

第81回東海三県高校将棋大会団体戦A級

| Aリーグ | 1回戦 | 2回戦 | 3回戦 | 4回戦 | 5回戦 | 勝点 | 勝数 | 順位 |
|---------|-----|-----|-----|-----|-----|----|----|----|
| 1 愛工大名電 | 6 ③ | 5 ③ | 4 ② | 3 ② | 2 1 | 4 | 11 | 2 |
| 2 鶯谷 | 3 1 | 6 ③ | 5 ③ | 4 ② | 1 ② | 4 | 11 | 1 |
| 3 東海 | 2 ② | 4 ② | 6 ③ | 1 1 | 5 ② | 4 | 10 | 3 |
| 4 明和 | 5 ② | 3 1 | 1 1 | 2 1 | 6 ③ | 2 | 8 | 4 |
| 5 旭丘 | 4 1 | 1 0 | 2 0 | 6 ③ | 3 1 | 1 | 5 | 5 |
| 6 豊田西 | 1 0 | 2 0 | 3 0 | 5 0 | 4 0 | 0 | 0 | 6 |

B級以下各リーグの上位校は次の通り。

- B級①岡崎 ②松蔭
- C級①天白 ②名古屋
- D級①岐阜 ②岡崎北
- E級①中村 ②栄徳
- F級①旭野 ②惟信
- G級①刈谷北 ②小牧南

これらの学校のうち、松蔭、岐阜、岡崎北を除く学校がひとつ上の級の下位校との入替戦にも勝って、昇級を果たした。岡崎は3期連続で、来期はついにA級入り。また、名古屋は前回参加校の欠席の影響でC級に繰り上がっていたため、結果として4期連続昇級の快挙達成となった。

【交流団体戦】

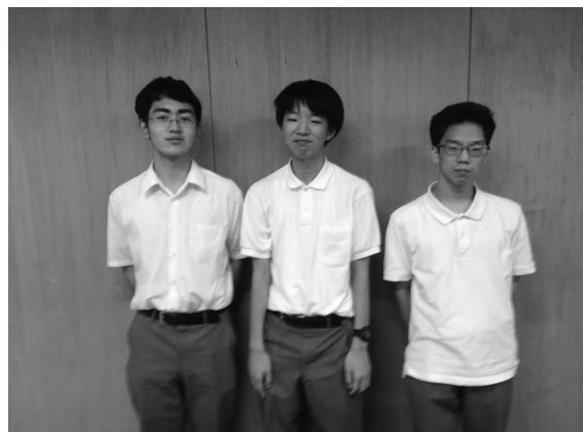
これは、リーグ団体戦の参加者以外の同一校3人でチームを組むもので、1校1チーム、ただしリーグ団体戦でA級に所属する学校は2チーム出すことができる。クラス分けはなく、25分切れ負けのスイス式5対局の結果で順位を決める。スイス式の組合せには、初めてスイス式のソフト（とノートパソコン）を利用した。

将棋部の無い学校の生徒が参加しづらくなってしまったが、参加者にとっては5局指せることは魅力となった（これまでの個人戦は最初からトーナメント戦だった）。

1年生トリオの東海が最終5回戦で鶯谷②を3勝0敗で破り、唯一の全勝チームとなり優勝。初戦で敗れた後、3-0勝ちを続けた岡崎が勝ち数の差で2位、以下3位は鶯谷①、4位は明和②、5位は岐阜、6位は明和①、7位は鶯谷②、……と続く。



リーグ団体戦優勝の鶯谷高校
(左から顧問の伊藤先生、山口さん、佐藤君、宮堂君)



交流団体戦優勝の東海高校
(左から蓮田君、塚原君、山田君)

第82回大会は2020年2月に開催の見込みで、参加には事前申込が必要。新規参加の問合せは、年内に南山高校女子部奥野まで（052-831-0704）。

以上